
Arabic lexicography の諸問題

山路 広明

内 容

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| I lexicon の意味 | 4) 現代語の問題 |
| II lexicography の意味 | 5) hamzat al-waṣl の問題 |
| III lexicon の種類 | 6) 動詞と前置詞との結合の問題 |
| IV 特にアラブ語を採り上げた理由 | 7) ローマニゼーションの問題 |
| V アラブ語各辞書の概観 | 8) 派生形動詞をローマ数字で表わすべきか、実形で示すべきか |
| VI アラブ語文法上の諸条件と lexicography との関係 | 9) 動詞状名詞を示す問題 |
| 1) tanween の問題 | 10) 形容詞の女性形を示す問題 |
| 2) 複数形の問題 | 11) vocabulary の採り入れ方 |
| 3) 動詞現在形第2母音の問題 | |

参 考 文 献

- 1) Wortabet, William Thomson :—
Arabic-English dictionary. Cairo, 1888 (P-853)
- 2) Wortabet, John & Porter, Harvey :—
Arabic-English and English-Arabic dictionary. N. Y. 1954 (P-1304)
- 3) Elias, Elias Anton :—
School dictionary, English-Arabic & Arabic-English. 10. ed. Cairo [n. d.] (P-1493)
- 4) Steingass, Francis Joseph :—
Students' Arabic-English dictionary. London, 1884 (Repr. in Tokyo, 1942) (P-1067)
- 5) Wehr, Hans :—
A dictionary of modern writing Arabic. Ithaca, N. Y. 1961 (P-1603)

- 6) Al-farā'idu ad-durreeyatu li-aṭ-ṭullābi, 'arabee-' injuleezee. Beirut, c1955 (P-1706)
- 7) Belot, J. B. :—
Vocabulaire arabe-français à l'usage des étudiants. Beyrouth, 14. éd. 1929 (P-1253)
- 8) Kazimirski, A. de B. :—
Dictionnaire arabe-français, contenant toutes les racines de la langue arabe, leurs dérivés, tant dans l'idiome littéral, ainsi que les dialectes d'Alger & de Maroc. 2 v. Paris, 1860 (P-857)
- 9) Варанов, Харлампий Карпович :—
Аравско-русский словарь. Москва, 1957 (P-1415)

I lexicon の意味

lexicon というのは、原語はギリシャ語 *λεξικόν* で「辞書」を意味するが、ヨーロッパでは特にギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語、アラブ語等古典研究に必要な、またそれに関係ある言語の辞書を指して言っている。しかしおそらくこの語は古インド語 *likh* 「ひっ搔く、搔き跡をつける、書く」から由来したものであろう。

辞書とは、ある種の国語の単語を、ある一定の様式——たとえばアルファベット順——に排列し、その各語に相当した、あるいは最も近い意味を有する他の国語を記入して最初の国語の有する意味を解明したものである。

II lexicon の種類

lexicon を一般に「辞書」という意味に解釈すれば、その種類は多数ある。

- 1) 対訳辞書：ある国語の単語を一定の順序、様式に従って排列し、それにその国語に相当する意味内容を有する他の国語を併記したもの（I の説明に同じ）。
- 2) 双解辞書：ある国語の単語に外国語訳を付し、さらにその国語の同義語で、あるいは他の言葉で説明を加えたもの。
- 3) 解説辞書：ある国語の単語の意味内容を、通常は他の国語で詳細に説明したもの。
- 4) 語源辞書：ある国語の語源、すなわちある程度まで溯った形やその変遷、および他の外国語からの借用語の根源を説明したもの。
- 5) 語根辞書：ある外国語の発生論的要素を捉え、語根すなわちこれ以上分解して解釈できないと思われる根本的な形について、その *morpheme* <語素> の有する意味を明らかにし、その相互関係および附着詞をも加えて説明したもので、厳

密な意味で、語源辞書とは内容、目的を異にしている。

6) 用語辞書：各単語の用語、すなわち場合々々における姿を捉えてその用法を示したもので、同意語の区別および慣用句にまで言及したものだ。

7) 文法辞書：文法上の用語用法および普通の辞書には載っていない特殊な文法的变化を詳細に示した辞書、特にアラブ語は文法的变化が複雑であるためにこの種の辞書が必要である。

III lexicography の意味

lexicography は lexicology とは異なった分野である。この言葉は、やはりギリシャ語の *λεξικόν+γράφειν* <書く>の結合したもので、<辞書を書く>の謂である。一般に訳語としては<辞書編纂法>とされている。

辞書編纂に当たっては、まず編纂の対象とする言語の性格、語数、使用頻度、かつてその言語について編纂された辞書の研究、編纂の目的、主旨、語の排列の方法、語の取捨選択、熟語・慣用句の取入れ等細心の注意と万全の準備の下に行なうべきである。

一旦これらの諸条件のあるものが欠けたとしても、その辞書は形の整わないものとなり、使用者にとって不便を与え、調査の手数をかけさせることになる。

IV 特にアラブ語を採り上げた理由

以上は辞書そのものの意味について概略述べたのであるが、次にアラブ語の辞書について述べよう。この項で他の言語を採り上げず、特にアラブ語を採り上げたのは次の理由によるものである。

1) アラブ語の辞書の標準的な、あるいは決定版的なものがまだ出版されていない。

2) 文法的变化があまりにも複雑で、語形が多過ぎる。

3) 各辞書の形式があまりにも区々である。

4) 採り入れた語が区々である。

5) 旧版が多く、新語に欠けている。

各辞書の比較の内容見本は文末に掲げた。

V アラブ語各辞書の概観

アラブ語辞書で知られたものとしては、参考書目に挙げたものが主なものであるが、このほかに Edward William Lane の大辞書がある。この人は、《An

account of the manners and customs of the modern Egyptians. 1836》その他のエジプト、アラブ関係書で著名な人、千夜一夜の原文からの訳でもよく知られている。この人の辞書は相当詳しいものであるが、この項では、都合により内容を示さないことにした。

Wortabet のものはカイロの旧版(1888)とニュー・ヨークの新版(1954)とがあり、旧版は新版に比し約2倍の内容を有しているが、新版の方には English-Arabic が併載されている。その編集方針は両者一様である。

Steingass のものは、他の辞書に比し思い切った独特の形式を採り、見出し語の排列も必ずしも語幹によらず、mu- (概ね人)、ma- (概ね所)、mi- (概ね物、道具)をあらわす語は、概ねそのままアルファベット順に置かれている。なお各派生形の動詞状名詞もそのままアルファベットの順に排列されている。

Elias の辞書には大、中、小の三型があり、大は基本版、中は学生版、小はポケット版である。いずれもカイロのModern Press から出版され、世界的に普及されているのは新語に富んでいるからであるが、この大、中、小いずれにも動詞現在形第2母音と名詞の複数形を欠いていることは多大の不便を与えている。

Al-farā'idu ad-durreeyatu の英語版のものは同じくベイルートで発行された Belot の同名の辞書の英訳の縮小版と思われるが、多少形態を異にしており、語幹が大文字で明記されている点、あたかも Kazimirski のそれに似ている。この辞書は手頃で、ポケット版としてはかなりよく編纂され、Wortabet の新版とは比較にならないほど利用価値のあるもので、近代語も少なからず採り入れられてある。

Hans Wehr の辞書は、英語版が1961年にニュー・ヨークで出版されたが、原本はドイツ版であり、その詳細な批評は《Journal of the American Oriental Society, Vol. 83, No. 3, 1963》の Review of Books に Dropsie College の M. M. Bravmann 氏が載せているからここでは省略する。

Baranov の辞書は、近代語の採用はともかく、あらゆる点で親切であり、巻末には世界各国のアラブ語呼称の地名リストが加えられていることは便利である。

Kazimirski の辞書は、上・下二巻から成り、すべての語幹が採り入れてあると謳ってある様に、たいそう詳しいものであるが、動詞の派生形の表示にもう一段の研究が加えられて然るべきではなかったか。近代語に欠けている。

VI アラブ語文法上の諸条件と lexicography との関係

アラブ語は文法的变化が余りにも複雑であるために、lexicon を編纂する上に多くの点(条件)を考慮に入れなければならない。それには概略次の11項目を挙げることができよう。その条件の一つが欠けてもその辞書は使用者にとって利用し難いし、さらにその欠陥を他の辞書で補わなくては使用目的が果たされない。

辞書は言葉を取り扱ったものであるから、厳密には刻々とは言えないまでも、時にふれ内容が変化していくべきものである。他民族との接触によって借用語がでたり、新しい現象が生じればそれに従って新語も造られる。この様に古い辞書は一定の期間を区切って再編成されなければならない、廃語や古語は、辞書の目的に応じてそれぞれその帰属すべき所を定められるべきである。

この意味において、アラブ語の辞書もまた旧版より新版へ、古い不備な条件より新しい完備した条件へと推移して行く必然性と傾向とを無視し、半～一世紀前の辞書に版を重ねることは決して賢明な策とは言えない。

1) tanween の問題

tanween とは、アラブ語名詞および形容詞の文語々尾のことで、たとえば kitāb <書物, 本> は文語では kitāb-un と読まれる。Wortabet, Baranov, Farā'id, Elias の辞書にはこれが現わされているが、Hans Wehr, Steingass のにはともに示されていない。これが示されていないと、文語を正しく読む上に困る場合が生じる。すなわちアラブ語では、名詞および形容詞の全部が tanween を保持しているのではなく、あるものは最後の n を脱落させた形を採り、その oblique case の語尾も異なっている。そのために、両者の区別をするためにも tanween の明示は辞書として必要である。

2) 複数形の問題

多くのアラブ語の辞書には、複数形が示されている。複数形には一定の規則があるとはいえ、不規則にも等しいほど繁離なものだけに一語一語にそれを明示しなければならない。また単複両用の形の語がある。Elias の辞書にはこの複数形が欠けているために使用に不便である。

3) 動詞現在形第 2 母音の問題

アラブ語の動詞には他のセム系語（大部分は一旦死語となった）の動詞同様、現在形の第 2 母音がある。これは動詞原形の第 2 母音とは異なる場合が多い。

原形	現在形	
katāba	—	yaktubu 書く
shariba	—	yashrabu 飲む
kathura	—	yakthuru 多くある
daraba	—	yaḍribu 打つ
fataha	—	yaftahu 開く

またこの母音の種類によっては、語義の変わるものさえある。従って動詞原形の第 2 母音と現在形の第 2 母音とを知らなくては文章を正しく読み、また正しく話

すことはできない。なお死語となったセム語は、セム語には本来ないe音等を用いて第2母音を歪めて発音している。

現在形の第2母音は、原形の第2母音との間に大体の規則はあるが、習慣によって変わるものもかなりある。そのため辞書にはこれを必ず明示すべきであるが、Eliasの辞書には示されていない。

4) 現代語の問題

現代語は、新聞雑誌を読む上にぜひ必要である。多くの既刊のアラブ語の辞書は、Eliasのものを除き、1800年代に編纂されたため、現代語に欠けている。従ってSteingassの様な詳細な辞書であっても、古典を読むには適しているが、現代文を読むには不適當である。

5) Hamzat al-waṣl の問題

これはアラブ語文法上の大問題である。これは多くの学者や辞書編纂者によって、全アラブ語の'alifで始まる語の前にhamzahが置かれてあると見做されているものであるが、ism, ibn, ibnah, imra'ah, imra', ist, ithnān, ithnatānの8語、定冠詞al-および派生動詞で第IV形の'af'ala以外の'alifで始まる形の動詞およびその名詞形語頭の'alifにはhamzahがないのである。

hamzat al-waṣlというのは、hamzahを有する'alifの母音が先行語の末尾の母音とliaisonする関係で消滅することを言い、それには上に挙げた諸語もこれに相当するという見方と、上述の諸語には'alifにhamzahを有しないからliaisonできるのだという見方との二通りある。私は後者の説を保持する者で、hamzahは喉音であるからliaisonしない。従ってhamzahがwaṣl(喉音消滅)することはなく、hamzahを有しないものだけがliaisonする。多くの文法書や辞書には、以上の諸語、諸形にもhamzahが付されてあるが、これは文法上、また音韻上明らかに誤りである。なおhamzahを有する母音と有しない母音との区別は、古代エジプト語、コプト語にもあったし、現代トアレグ語にも見ることができる。

6) 動詞と前置詞との結合の問題

アラブ語は、英語のように、動詞と前置詞とが結合して一語の意味を表わす場合が多い。すなわち、前置詞には本来の意味を保持する場合と、動詞との結合によって本来の意味を失い、単に目的格を表わし、訳せば「を、に」となる場合との二通りある。ある一つの動詞を取り上げてみても、その結合する前置詞によって意味を異にするものが多い、それがために動詞を示す場合には、

- 1, 動詞が前置詞と結合しない場合の意味
- 2, 前置詞と結合して前置詞本来の意味を失う場合の動詞の意味

3, 動詞が前置詞をとるも前置詞が本来の意味を保持する場合の意味を考慮に入れるべきである。

7) ローマニゼーションの問題

元来、アラブ語の辞書には、母音記号を付せばローマ字書きは不必要であるが、それでもなおあった方が便利であり、確かである。

Steingass は見出しの最初の語にのみアラブ原字を付し、他は全部ローマ字であり、Hans Wehr のには一語一語にローマ字が付されてあるが、両者とも *tanween* を省いている。

ローマ字は、転写が人によって差が著しいので、まだ統一した様式はない。

8) 派生形動詞をローマ数字で示すべきか、実形で示すべきか

動詞の派生形を示すのに、原字で実形を採っている辞書と、ローマ数字 (I, II, III 等) を用いて示したものとがあるが、ローマ数字で示せば印刷上簡単ではあるが、弱動詞を示すのに不便であり、実形とそれが第何変化であるかを示すのに、ローマ数字を併用した方が使用上いっそう便利である。Baranov の辞書には両者併用してある。

9) 動詞状名詞を示す問題

アラブ語の動詞には、それぞれ動詞状名詞があり、Wortabet の辞書には、旧新版ともこれがあたかも各動詞の目的格であるかの如くに示されている。Steingass のものには名詞形として示されているが、Elias のには示されていない。また Hans Wehr のものにも動詞の次に示されている。このように動詞状名詞は、その動詞の次へ主格形で示さるべきである。

しかしアラブ語中には、この逆の場合もある。すなわち *kibreet-un*, *kabreet-un* <マッチ、硫黄> は名詞であるが、この言葉が動詞化されて *kabrata* <硫黄を被せる> となり、逆に *kabrata* があたかも語源であるかのように示されているものもあることに注目する必要がある。

10) 形容詞の女性形を示す問題

形容詞の女性形は、その用法が複雑である。たとえば、<赤色>を示す語は、*'aḥmaru* (男), *ḥamrā'u* (女) となるが、一般には *kabeer-un* (男), *kabeerat-un* (女) <大きい> の様な形をとる。このような場合、一般形は *-at-un* を付して女性形とするが、色および不具を示す語については、一般とは異なった女性形を持っているから、それを特示する必要がある。

11) Vocabulary の採り入れ方

次に vocabulary の採り入れ方について、二、三調べてみると、vocabulary は、その派生語とともにできるだけ多く採り入れ、語彙を豊富にすることが望ましい。たとえば Wortabet の旧版と Farā'id の英版のものとを比較すれば、同一語幹から派生した語でも、一方に採り入れてあって他方に発見できないものがかかなりある。しかし編纂に当たっては、これらの辞書をできるだけ多く参照し、必要な語を採り入れるべきである。ごく稀にしか用いられない語、および古代、中世の文学に出てきて現代とはほど遠いものなどは、現代語の辞書から省いて、それらの必要な分野に繰り入れたい。

なお訳語の問題としては、shahr に例をとれば、この語は現在は時の〈月〉を意味するが、シリア語では天体の〈月〉を指している。語根からみれば、この語は shah 〈光〉を意味するから、当然、天体の〈月〉が先意であり、時の〈月〉が派生意である。Wortabet の旧版には両意の〈月〉が示されてあるように、採り入れた語には詳細な意味を付することが親切であり、語義の順序も問題とすべき点であると考えらる。

条 件	著 者	Baranov	Kazimirski	Belot	Steingass	Hans Wehr	Farā'id	Wortabet, J.	Wortabet, W. T.	Anton Elias	Edward Lane	標準 型
tanween		○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○
名詞の複数形		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
現在第2母音		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
現代語		×	×	○	×	×	○	×	×	○	×	○
hamzat al-wasl		○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×
動詞+前置詞		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
ローマニゼーション		×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○
由來形の実形		○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○
動名詞		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
形容詞の女性形		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

Lochia.	مَلَابَةٌ	To rain heavily, مَلَّ يَهْلُ مَلًّا *
A rainy night.	لَيْلَةٌ مَالِيَةٌ	or pour down in heavy showers.
A kind of dish made of	مُهَلْبِيَةٌ]	To appear (moon); begin with
pounded rice boiled with milk		the new moon (lunar month).
and sugar.		To be afraid, flee. To praise هَلَّلَ
To tell, relate هَلَّجَ يَهْلُجُ هَلْجًا *		God. Profess the unity of God
incredible things.		by pronouncing the words —
		لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ "There is no other
		deity but God!"

ウォルタベ <ア英辞書> 旧版

Here ! Come here !	هَلُمَّ	Is not ? Why not ?	هَلَّا
And so on, <i>et cætera</i> .	هَلُمَّ جَرًّا	Come! Hasten!	حَيَّ هَلِّ
Jelly.	هَلَامٌ	To appear, (new moon).	هَلَّ يَهْلُ
Jelly-like, gelatinous.	هَلَامِيٌّ	To praise God.	هَلَّلَ
They ; their ; them.	هَمٌّ	To exult, be joyous.	تَهَلَّلَ

ウォルタベ <ア英辞書> 新版

To praise God.	مَلَّلَ . سَبَّحَ	Bristles.	مُتَلَّبٌ
To applaud a person.	لَهُ	مرساة السفينة	مِثْبَابٌ
To appear;	هَلَّ . اِهْلَ . ظَهَرَ	← Anchor.	
come out.		Unauthenticated news.	مَلَّجٌ
To fall heavily.	اِهْلَ المطرُ	Myrobalan.	مَيْلَجٌ . اِهْلَجٌ
To be radiant	تَهَلَّلَ الوجهُ	(في الهندسة)	
with brightness.		Ellipse.	⊕
Crescent.	هِلَالٌ . غُرَّةُ التمرِ	Elliptic, —al.	اِهْلَاجِيٌّ
New moon.	قُرْ اَوَائِلُ الشَّهْرِ		

エリヤス <ア英辞書>

ment; break wind slightly; pass. be thrown down; — VII. *inhikak*, be made giddy, intoxicated; kneel down.
 هك *hakk*, violent rain; pl. *hakaka-t*, *ahkik*, depressed, suffering; excrement of a bird.
 هكاع *hukā'*, cough; rest, quiet; slumber; voluptuousness, sensuality; — ي *hukriyy*, voluptuous, sensual.
 (هكب) *hakab*, I, INF. *hakk*, laugh at, mock at, deride.
 (هكد), II. *hakkud*, INF. *tahkid*, press

(هل) *hall*, V, INF. *hall*. (m.) I, INF. *halil*, appear in the sky; begin with a new moon; pour down violently; shout for joy, exult, cry out; rejoice; — II. INF. *tahlil*, praise God, profess the unity of God, pronounce the words لا اله الا الله *lā ilāha illā 'l-lāhu*; — III. INF. *hilāl*, *muhālla-t*, conclude a contract or agreement for a month; — IV. INF. *ihlil*, watch the appearance of the new moon; act. and pass. be on the point of showing

スタインガス <ア英辞書>

مهنت *muhafaf* slender, slim, svelte: thin
 هفا *hafā u* (*hafu*, هفوة *hafwa*, هفوان *hafawān*) to slip, commit a lapse, make a mistake; to err; to be weak with hunger, famished, starved; to hurry, rush (ل to); to reach quickly (ل to s.th.), snatch (ل at s.th.); with ب: to induce s.o. (ل to), tempt s.o. to do s.th. (ل); هفوا (*hafu*, *hafūw*) to flutter, fly, float in the air; to throb violently, beat feverishly, flutter, be passionately ex-

هل *halla i* (*hall*) to appear, come up, show (new moon); to begin, set in (month) II to say the words *lā ilāha illā llāh*; to shout with joy, rejoice, exult, jubilate; to applaud, acclaim, cheer (ل s.o.) IV to appear (new moon); to cheer, exult; to offer up (ل an animal to a deity) V to shine, gleam, glow, be radiant: to beam with joy (face); to be delighted, jubilant; to cheer, rejoice, exult, jubilate VII to fall heavily, pour down (rain); to begin (ل with), take up, undertake.

ハンス・ヴェール <ア英辞書>

To fall heavily هل - هل - هلا (rain). To appear (new moon).
 To begin (lunar month). To rejoice. To lose their gloss, to become shabby (clothes)
 To expand (the dough: woman) ه -
 To be frightened, to fly away. To praise God, by repeating هلل لا اله الا الله (there is no God but God)

To starve a.o. هنى ه
 Transient rain. Ravenous hunger هنا
 Fault, slip, error, lapse هفوات هفوات
 Destitute. Starving هواف هواف
 Foolish people هفنا
 Clash of swords. Clatter هففة
 Roaring of the sea. Gurgling هفتر
 noise in swallowing. Extensive sea
 To strut هفكل الحصان
 Lofty building. Altar, هفكل هفكل

ファラード <ア英辞書>

Nouvelle lune. **حَلَالٌ** *ahā'il* **أَهْلَةٌ وَأَهَائِلٌ**
 Lune des premiers ou des derniers jours du mois. Croissant. Tout ce qui a la forme d'un croissant. Grampon, fer de la lance à deux pointes. ◇ Parenthèse.
 Joie qui succède à la tristesse. **هَلِيٌّ**
 Il est allé on **ذَهَبَ بِهَلِيَّانَ وَهَيْدِي هَلِيَّانَ**
 ne sait où.
 Terre trempée seule par la pluie. **هَلِيَّةٌ**
 Commencement d'un **إِخْلَالٌ** *washtihlāl*

Tomber avec violence **هَزَلًا** *hazal*
 (pluie). Apparaître à l'horizon (nouvelle lune). Commencer (mois lunaire). Se réjouir (personne).
 ◇ S'user, perdre son lustre (habit).
 ◇ Façonner (le pain : femme). **ه** —
 Avoir peur; fuir. Louer Dieu **عَلَّ**
 en disant : **لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ** (musulman).
 S'absteur de...
 Louer (un ouvrier) **عَلَّ مَهَاتَةً وَهَلَالَ**
 pour un mois lunaire.

ペロー <ア仏辞書>

هَلَّ 1. Apparaître, commencer à se montrer à l'horizon (se dit de la nouvelle lune). De là 2. Commencer (se dit du mois lunaire). — **هَلَّ الشَّهْرُ**. 3. Tomber avec violence (se dit d'une averse). 4. Crier de joie, se livrer à une joie bruyante. 5. (n. d'act. **هَلَّلَ**) Tisser sa toile (se dit de l'araignée). II. (n. d'act. **تَهَلَّلَ**)
 1. Fuir, prendre la fuite, se sauver.

en égorgeant un animal, av. **ب** de la p. ou **عَلَى** de l'animal. 8. Tuer quelqu'un avec un sabre. 9. Entamer quelqu'un. On dit : **أَهَلَ السَّبْعُ بِفُلَانٍ** Le sabre mordit à un tel. 10. Porter la langue contre le palais pour en tirer de la salive (se dit d'un homme qui a soif). — Au passif, **أُهِّلَ** Être invoqué (**نُودِيَ**). On dit : **مَا أَهَلَ لِعَبْرِ اللَّهِ يَدٌ** Il n'a pas été invoqué sur cet animal, sur cette victime, aucune autre divinité que

カズイミルスキー <ア仏辞書>

плыть в воздухе; **تَهَلَّفَ** быть стройным, гибким;
مُهَلَّفٌ 1) тонкий, прозрачный;
 2) стройный;
مُهَلَّفٌ = مَهَلَّفٌ
 I **هَلَّ** (u) **هَلَّ** 1) сделать промах, ошибиться; 2) летать, носиться в воздухе; 3) быть изнуренным голодом; изголодаться;

I **هَلَّ** (u) **هَلَّ** 1) становиться видным, появляться, показываться; 2) исходить (о месяце, луне); 3) начинаться; II **هَلَّلَ** 1) кричать, приествовать возгласами; 2) славить, прославлять; 3) признать слова: «нет божества кроме Аллаха» (**لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ**); IV **أَهَّلَ** появляться (о молодом месяце, луне);

バラノフ <ア露辞書>